

幼児・児童の造形表現を学ぶ模写の有効性について

On The Effectiveness of the Copy Drawing Method of Infant and Child's Picture

キーワード：児童画、描画の発達段階、保育者養成、保育内容、授業改善

Key Words: Child Painting, Developmental Stages of Drawing,
Training Child Care Personnel, Childcare Content, Lesson Improvement

渡邊 洋

WATANABE Hiroshi

Abstract

As basic learning in the childcare person training course, we conducted a lesson to confirm the developmental stage by confirming the content of the learning, copying the picture of the child. Extract the content of learning that the student finds in the practical skill, and compare the children's work with the students work. I feel the effectiveness in the imitation that can sense the inner feeling of an infant such as the sense of movement and expression content in drawing sensually. We decided to analyze the learning through replication and check its effectiveness, aiming at improving the lesson which lets you efficiently learn the teaching instruction method.

1. はじめに

幼稚園教諭・小学校教諭養成課程において、子供の描画表現の実際について学ぶことは、造形指導を考えるための基礎的な学習事項である。

造形表現領域は、幼稚園教育要領および認定こども園教育・保育要領や保育所保育指針に定められる「ねらい」「内容」に関わり、小学校教育課程を見通した「豊かな感性と表現」が養われるようその役割を担うものである。

保育内容を学ぶ演習授業で、幼児・児童画の描画事例を観察し、成長することに見れる幼児・児童の表現内容や描画感覚を学習する段階がある。「なぐり描き期」「象徴期」「図式期」などの発達段階に照らし、幼児・児童画に見出す造形的な特徴から幼児・児童の意識を理解しようと試みるのである。幼稚園教

諭や保育士養成において、指導計画の作成や模擬保育などに発展的に生かされる多くの気づきがあり、ここで獲得できるものと考えている。

「体育短期大学児童教育学科幼コース(幼保ユニット)」では、以前より実技を伴わない視覚資料による幼児・児童画の学習を進めていたが、2015年より幼児・児童画の模写を通じ、その表現内容と描画感覚を理解する演習を課題としている。

本研究では、模写制作と自由記述の両方から捉えることで、学びの内容を確かめることとし、「なぐり描き期」「象徴期」「図式期」の幼児・児童画を準備した。これまでは、この中から、自由に選んで模写を課していたが、今回段階の異なる3つの模写を課することで、発達段階というまとまりを感覚的に確かめさせることがねらいである。受講者が実技の中で見出す学びの内容を抽出し、模写作品と原画を比較する。模

写は古典的な学習方法であり古くから画家や彫刻家などが、造形の修練や技能研究として取り組んできたものである。教育においても、図画工作科や美術科で教材とする場合もあるが、模倣としても捉えられることから、美術教育の教材としては主流とはなりにくい。しかしながら、保育者養成という立場から、描画における運動感覚や表現内容など幼児の内面を想像して感覚的に捉えていくことができる模写に有効性を感じ、効率よく造形指導方法を学習させる授業改善を目指して、模写を通じた学びを記録分析しその有効性を確かめることとした。

2. 研究方法

2-1. 方法

三つの段階に区分した幼児・児童の絵を学生に模写してもらい、その描画感覚を振り返る授業を行った。本学研究倫理審査委員会の審査を経て、その自由記述に対し分析を行い、学生がどのように学んでいるのかを抽出して、本教材での学びの傾向を明らかにした。

さらに、受講者に多く選ばれた原画とその模写作品を比較して、その特徴を確かめた。

2-2. 対象者及び実施日・実施場所

対象者： T体育短期大学児童教育学科「造形表現Ⅰ」受講者の中から単位取得見込みのある者45名

実施日： 平成29年10月6日

実施場所： T体育短期大学4号館造形室

2-3. 模写と自由記述の内容

幼稚園教諭を目指す学生の必修科目「造形表現Ⅰ」の授業で模写の演習課題を設定した。画材は、「色鉛筆」「クレヨン」を使用した。絵具による幼児・児童画の模写は、「クレヨン」で模写するように指定した。

実技に取り組む前に、描画発達に関する講義を施し、「運動的段階である『なぐり描き期』『象徴的段階である『象徴期』『構成的段階である『図式期』」

の大まかに3段階あることについて理解を促し、定着を図った。

模写をする原画は以下3種に分けて、番号を記して受講者に自由に選ばせた。

- (1) 概ね1歳から2歳半児の絵画で「なぐり描き期」にあたる絵：26枚
- (2) 概ね2歳から4歳児の絵画で「象徴期」にあたる絵：28枚
- (3) 概ね3歳から6歳児の絵画で「図式期」にあたる絵：90枚

表-1 模写演習での自由記述内容

原画の発達段階	考察を促す設問
なぐり描き期	子供の感覚・感触(筆圧、手や腕の動き)など体験して感じたことは?
象徴期	子供の感覚・感触(筆圧、手や腕の動き)など体験して感じたことは? 模写することでわかった象徴期の特徴について教えて下さい。
図式期	子供の感覚・感触(筆圧、手や腕の動き)など体験して感じたことは? 模写をして実感できた描画の発達段階におけるイメージについてどう考えますか?

模写は、3グループに分かれて、(1)から(3)をローテーションした。段階ごとに模写を各1枚計3枚制作し、以下の内容でそれぞれの模写に自由記述を課した。B4用紙を用いてB5サイズで模写制作、残りの半面を自由記述とした。

模写が終わり次第、得られる描画の感覚や感触について(1)から(3)のそれぞれで記述を課した。

さらに、3段階の中間にある(2)の「象徴期」で、その絵の特徴について自由記述を課した。また、(3)「図式期」では、描画する幼児・児童が描くイメージについて自由記述を課した。

2-4. 手続き

提出された自由記述文をテキスト化し、明らかな誤字と脱字、文節の乱れを修正した。その後に「文」

を単位にして、頻出150語を抽出、共起ネットワーク図を作成した。抽出語リストと語と語の共起関係を参照し、コーディングルールを作成して、学びの傾向の抽出を試みた。

自由記述を三つの発達段階で分割し記述内容の傾向を確かめた。

模写作品の中から、受講者に多く選ばれた原画と模写された絵を比較して、段階ごとに学習内容の傾向を確かめた。

一連の手続きで、テキスト分析にはKH Coder 2.xを用いた。

なお、子供の原画と模写作品は静止画撮影を行いグレースケールに変換後、適宜レベル補正を行った。

3. 結果と考察

3-1. テキスト分析の結果

表-1 模写演習での自由記述内容

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
描く	421	薄い	19	良い	10	複雑	7	位置	5
思う	226	象徴期	18	グチャグチャ	9	面白い	7	一つ	5
絵	105	人	18	一筆	9	理解	7	一色	5
色	87	目	18	見える	9	輪郭	7	強調	5
線	70	大きい	17	模写	9	カクカク	6	自由	5
筆圧	67	動き	17	力強い	9	チューリップ	6	上がる	5
描ける	65	握る	16	ペン	8	一番	6	真ん中	5
円	56	想像	16	可愛い	8	右	6	青	5
イメージ	51	たくさん	15	丸い	8	角	6	あと	4
形	50	クレヨン	15	丸み	8	気	6	きれいな	4
分かる	46	女の子	15	曲線	8	区別	6	ウサギ	4
濃い	42	なぐり描き期	14	出る	8	細かい	6	カラフル	4
子供	41	星	14	色々	8	四角	6	引く	4
感じる	39	直線	14	真似	8	字	6	黄色	4
見る	35	表現	14	赤	8	終わる	6	下	4
手	33	鉛筆	13	塗りつぶす	8	縦	6	回す	4
丸	32	楽しい	13	特徴	8	書く	6	角度	4
塗る	32	小さい	13	入る	8	図式期	6	感覚	4
感じ	29	上手	13	入れる	8	成長	6	簡単	4
難しい	29	伝わる	13	年齢	8	途中	6	犬	4
使う	28	部分	13	変える	8	動く	6	好き	4
顔	27	横	12	楽しむ	7	髪の毛	6	構成	4
多い	27	動物	12	気持ち	7	鼻	6	始め	4
力	25	口	11	行く	7	物	6	重ねる	4
考える	23	全体	11	弱い	7	はみ出す	5	笑う	4
少し	23	動かす	11	色鉛筆	7	カーブ	5	上手い	4
紙	22	比べる	11	人間	7	キャラクター	5	勢い	4
持つ	20	なぐり描き	10	男の子	7	グルグル	5	前	4
強い	19	違う	10	頭	7	ハート	5	全く	4
自分	19	子	10	表す	7	安定	5	増える	4

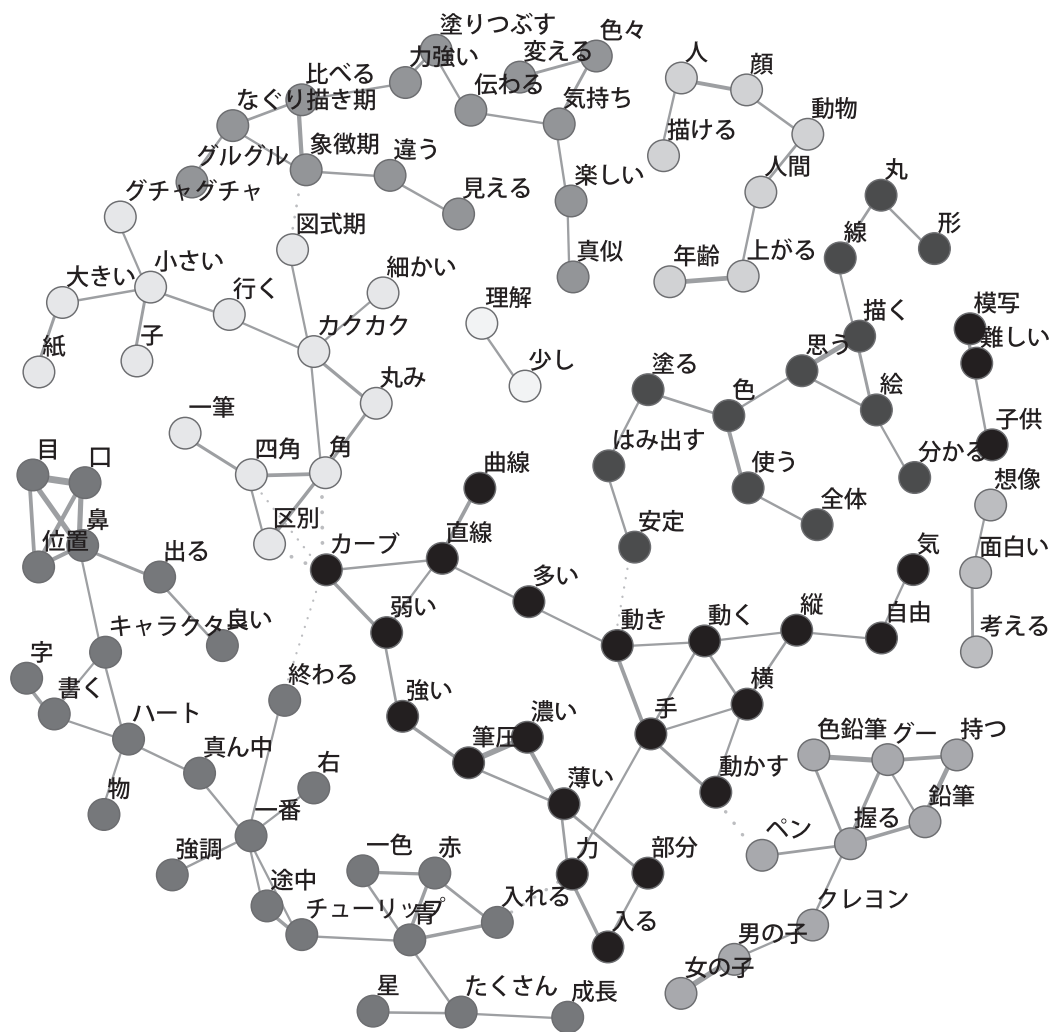


図-1 共起ネットワーク図(自由記述全体)

3-2. 記述内容からの検討

3-2-1. 頻出語

「色」、「円」、「イメージ」、「形」の順番で造形領域に深い結びつきを持つ語が並んでいる。「円」が上位に食い込んでいるのは、なぐり描き期から象徴期にかけての発達段階を捉えた記述に多く用いられたからである。その後は、感覚や感触に関連する「濃い」「塗る」「手」などが続いた後、「顔」「人」「目」などイメージに関する語が現れ、最後に「象徴期」「なぐり描き」「比べる」などの発達段階の関連語が続く。

3-2-2. 共起関係

豊かに結ばれている語のグループから見ると、まず「筆圧」「手」「強い」「弱い」「握る」など感覚・感触の関連語がグループを形成している。次に「目」「鼻」「口」「チューリップ」などイメージの関連語がまとまりを持つ。その他は、「図式期」と「形」に関する結びつき、「なぐり描き期」と「象徴期」との結びつきなどが見えている。それ以外は全体的に不明瞭に感じられる。その他で特徴を示している関係は、「模写」と「難しい」、「想像」と「面白い」、「理解」と「少し」、といった語の組み合わせがある。

3-2-3. 学習成果の抽出

頻出語とネットワーク図から、五つの内容に意味合いの似通う語をまとめた語群でコーディングルールを作成、解析ソフトに読み込ませて、受講者にどのような記述の傾向があるのかを出力したのが(図2)である。

*発達段階

なぐり描き期 | 象徴期 | 図式期 | 年齢 | 成長 | 比べる | 発達

*形

丸 | 四角 | 線 | 円 | 大きい | 小さい | 丸い | 丸み | 線 | 曲線 | 直線 | 輪郭 | カーブ | カクカク | グルグル | グチャグチャ | 形 | 長方形

*色

赤 | カラフル | 青 | 緑 | 一色 | 紫 | 色 | 赤色 | 暖色 | 茶色 | 肌色 | 黄色 | 黄色い | 灰色 | 緑色 | オレンジ

*イメージ

顔 | 目 | 人 | 女の子 | 星 | 動物 | 頭 | チューリップ | 髪の毛 | 鼻 | 物 | キャラクター | ハート | 人間 | うさぎ | 鳥 | 犬 | 分かる | 口 | 男の子 | 理解 | イメージ

*感覚

勢い | はみ出す | 縦 | 横 | 一筆 | 力強い | 真似 | 感じ | 感じる | 筆圧 | 濃い | 薄い | 力 | 握る | 手 | 弱い | 強い | 鉛筆 | クレヨン | ペン | 感覚 | 感触

今回の課題では、造形指導方法を学ぶ手がかりとして描画感覚や感触を掴むように伝えて指導した。結果として描画の「感覚」と、描かれる「形」や「イメージ」が関連して記述されていた。その反面、発達段階の理解、あるいは発達段階の比較といった、連携、派生する学びを期待していたところ、その関係が明らかに少ない。

「形」と「イメージ」の部分だけを見ると象徴期や図

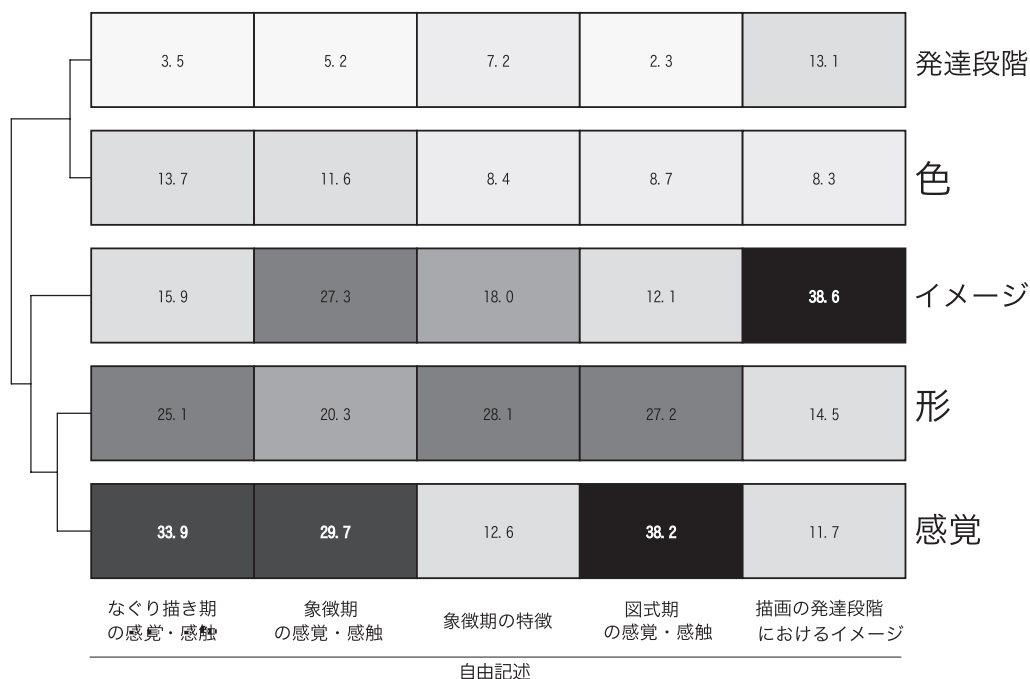


図-2 クロス集計マップ(自由記述全体)

式期の模写においては、その関係性が豊かに結びつきそうである。

「形」だけを見るとどの段階の模写でも記述が多いことから、発達段階を学ぶ場合には、形に観点を置いて模写で学ぶのが良いのではないかと。

どの段階の模写を行っても、自由記述の設問内容によって学びも変わることがわかる。集計された数値を、記述内容ごとに合計すると、「象徴期の特徴」という他段階と比較する部分が最も数値が少ないことから、「感覚」「イメージ」「形」「色」という言葉を手掛かりに学習するのが適しているであろう。

3-3. 模写作品からの検討

3-3-1. なぐり描き期の模写から

なぐり描き期の模写に対する自由記述では、画材を「握る」「持つ」感覚や、「手」の「動き」、「筆圧」などについて記述されている。なぐり描き期には、具体的なイメージがあまり示されないことから、曲線が重なって塗り込まれる場合などの模写の難しさを訴える記述が7例見られた。

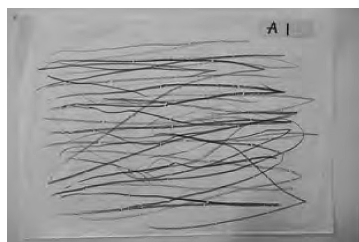
ここに取り上げる原画は、7色の色鉛筆で約70本の横方向の線が描かれている。原画の筆圧は様々で、色彩の変化が多様に現れている。横方向の重なり合う線は互いに交わり、様々な大きさ、様々な形の余白が生まれており、大変豊かな造形性を備えてい

る。この絵を選んだ受講者は、描くことの楽しさや形や色の面白さを記述していて、線の起点と終点を探っている記述が複数あった。象徴期と比較する記述は少なく、2例のみである。

3-3-2. 象徴期の模写から

なぐり描き期と象徴期の絵には似通ったイメージの絵がある。記述においては、「イメージ」に関する語、「形」に関する語が現れている。「手」「力」「動き」などもなぐり描き期と同様に現れている。「模写」が「難しい」という記述も8例あった。イメージの読み取りが「難しい」を含んでいた。

この原画を模写した受講者の自由記述には、「紙を回しながら様々な方向から描いている」「円を描くときの始点がバラバラである」など線や形への興味関心を高めていて、「何をイメージしたのかわからないがお団子ではないだろうか」などのようにイメージに結び付けようとする記述があった。原画は、一色で大変優しく描かれており、色については濃淡の変化しかない。そのため模写した受講者は、形や線の観察に注意が向いたと思われる。典型的な象徴期のシンプルな姿であるため、なぐり描き期と象徴期と図式期の比較に関する記述も生まれていた(4件)。中には、具体的なイメージが見えない絵に幼児・児童の表現内容を予想するなど、実際に認められる以上の



原画

模写①



模写②



模写③



模写④



模写⑤



図-3 なぐり描き期の原画と模写作品

読み取りを試みるケースもあった。

3-3-3. 図式期の模写から

図式期になると、頻出する語も、語と語の関わりも、なぐり描き期と象徴期から劇的に変化する。「筆圧」「手」など感覚や感触に関係する語は中心からは遠くなり、これに変わって、「感じる」「伝わる」や「人間」「顔」「鼻」「口」「髪の毛」など「イメージ」が関連する語が中心になっていた。「円」「線」などの形に関連する語は象徴期に続き残っており、比較した考察も

行われていた(12例)。模写の難しさを訴える記述が2例あった。

原画と模写の関係を見ると、明らかに線や形を模倣しており、労せずに模写を行ったであろうことが読み取れる。絵を見ての記述でも、「塗る作業が多く取り込まれている」「何を描くか良くわかっている」「形を区別して描けている」「明確なイメージや描きたいものがある」など、なぐり描き期や象徴期と、「イメージ」に関連して結びついて考える様子が確認できた。

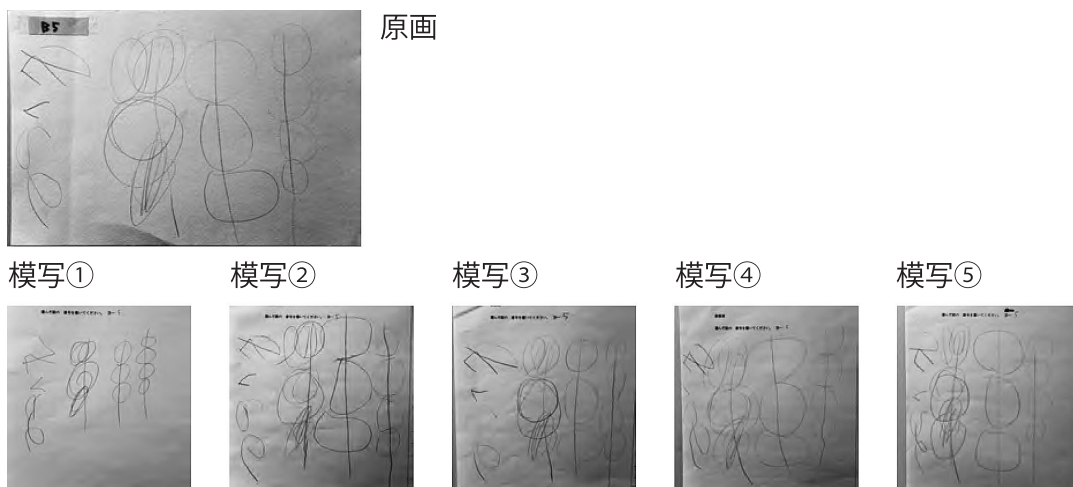


図-4 象徴期の原画と模写作品

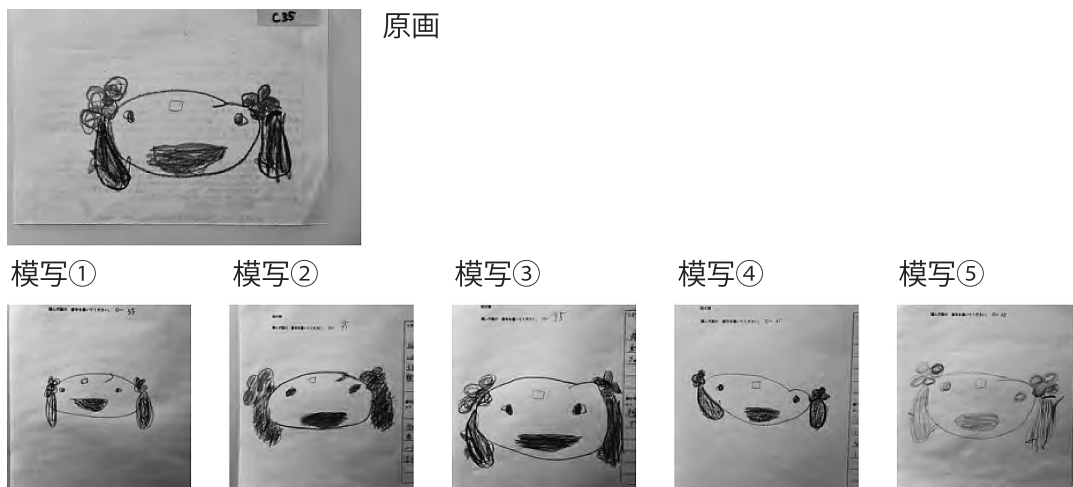


図-5 図式期の原画と模写作品

4. 課題

4-1. 受講者が模写の中で見出す学び

模写をするにあたって、模写以前の問題、そして学習の糸口を選択することが何よりも重要である。この中には、模写をする絵を良く吟味してから選ばない受講者も混ざっていた。あるいは、選択を間違った受講者がいたのかもしれない。記述内容が絵の特徴と合わない、または行き過ぎた解釈が含まれたものが対応分析の結果に1例現れた。より多くの幼児・児童画を見て、なんらかのきっかけを育ててから模写に取り組めるように、模写の導入部分で受講者への働きかけを改善していきたい。模写では、画面との対話によって一定の学びが得られることは確かめられたが、その学びをより深めるのは、様々な表現の可能性、発育発達の多様な姿を学ぶことであると考えられる。本研究で取り上げた原画を描いた受講者は、いずれも豊かな学びをしていたと思う。これは、事前に発達段階を理解して、子供の絵を丁寧に観察したことが、深く学べた要因であると考えられる。

この模写でねらいとする、発達段階というまとまりを感覚的に理解させることは、教育で実現しようとする子供の姿を展望するために有益である。同時に、その後の学習展開でさらなる授業改善に取り組む必要のあることも良くわかった。そのためには、さらに多くの文献や他所で行われた調査分析等を精査して、より良く造形指導方法を学べる授業計画に発展させたい。

4-2. 模写演習の有効性について

模写のために用意した作品は、2人の子供の成長の足跡であるため、良い資料もあれば、少しふさわしくないものも含んでいる。同じ紙に異なるタイミング（年齢）で描いていたり、家族と一緒に描いていたり、一部に生々しい子供の日常が刻まれていた。そうした説明を省いたので、授業改善が必要な部分も多い。しかし、それを見極める見識を育てることが目標でもある。

模写の学びは、前述したように過去2年間の授業実践の中で試した内容のまとめとして、今年度新しく

準備した授業内容である。記述分析の結果を見て、感覚的に子供の描画感覚を学ぶきっかけを与えることはできたと考えている。これはきっかけでしかなく、子供が描いた原画の絶大な力に助けられた成果でもある。加えて、子供の絵を理解するのは、造形指導方法について考える基礎としての位置付けである。この成果をどう生かすのか、受講者に効率よく定着し発展させる具体的な手立てが今後の授業改善の取り組みとなる。

5. 結論

これらのことから、児童画の模写において以下の諸点が明らかとなった。

- ・ 子供の絵の中にある豊かな造形性を感覚的に確かめることができる。
- ・ 感覚的に幼児や児童の描画感覚を体験することで、形とイメージとの関係に気づくことができる。
- ・ 形に対してはどの段階の模写でも安定した気づきが得られる。
- ・ 中でも図式期の模写で、形とイメージの結びつきを豊かに捉えることができる。
- ・ 色に関しては、原画が持つ色彩によるため安定した学習効果は期待できない。

三つの発達段階の絵を、一通り模写をすることで、それぞれの比較が可能となり、だんだんと内面にあるイメージに物理的な形が与えられていく、その成長の過程を効率良く学べたところに今回の授業改善の成果を見出すことができる。これは、どこかで1枚の絵を模写しただけでは決して得られないものである。

造形は、感覚的に感性を生かす領域である。見ることや触って確かめることが、学習にとって大切であると考えられる。模写による発達段階の学びと同じように、指導者として備えるべき資質を身につけるためには、段階的に造形課題に向き合う工夫を取り入れて、発育発達を幅広く見渡すべく、学びの質を高めたいと考える。

参考・引用文献

- 新井哲夫・石賀直之・大泉義一・岡照幸・刑部育子・
郡司明子・小泉薫・小池研二・立川泰史・名達英詔・
松原雅俊(2017):美術教育における授業研究の
すすめ方 美術科教育学会叢書第0号 美術科
教育学会授業研究部会
- ローダ・ケロッグ著 深田尚彦訳(1998):描画心理学
双書③児童画の発達過程 黎明書房
- 槇英子(1998):保育をひらく造形表現 萌文書林
- H・ガードナー著 星三和子訳(1996):子供の描画
なぐり描きから芸術まで
- 厚生労働省(2017):保育所保育指針
- 文部科学省(2017):幼稚園教育要領
- 文部科学省 厚生労働省(2017):幼保連携型認定こ
ども園教育・保育要領
- 文部科学省(2008):小学校学習指導要領